

参加無料



スマートフォンがなくても参加できます。
(カメラ等をご用意ください)

橋町界隈スマホdeまちあるき

指定箇所をすべて訪問された方には、おからねこバッジをプレゼント!! (限定300個/先着順)

スマートフォン(Android/iOS端末)を活用したまちあるき案内アプリケーション「名古屋歴史スマートナビ」(以下「ナビ」といいます。)を活用して、中区では橋町界隈を対象として「橋町界隈スマホdeまちあるき」を開催します。

好きな時間にご自分のペースで、名古屋の都心に残る歴史・魅力スポットをゆっくり歩いてみましょう。チェックポイント(5箇所/裏面)をすべて歩いていただきましたら、中区前津の伝承にちなんだ記念品「おからねこバッジ」をプレゼントします。

スマートフォンをお持ちでなくても、どなたでもご参加いただけます。ぜひチャレンジしてください!!

※参加者が個々にまちあるきをしていただくイベントです。区職員による引率・説明はございません。

橋町界隈スマホdeまちあるき 実施要項

1 参加方法

(1)スマートフォンをお持ちの方

お手持ちのスマートフォンに「名古屋歴史スマートナビ」をインストールし、ナビの地区一覧で「期間限定コース」→「橋町界隈スマホdeまちあるき」を選び、チェックポイント(5箇所/裏面)になっているスポットでスタンプを取得してください。現地に行ってスポット詳細画面から「スタンプ」を押して、撮影した写真をスタンプ台帳に保存することでスタンプを取得することができます。

(2)スマートフォンをお持ちでない方

中区役所まちづくり推進室又は中生涯学習センターで「見どころマップ」を受け取り、チェックポイント(5箇所/裏面)で裏面と同じ写真を撮影してください。見どころマップは、名古屋市公式ウェブサイトからもダウンロードできます。



▲みどころマップ

2 記念品引換(限定300個。先着順)

(1)引換期間 平成25年12月11日(水)～平成26年2月28日(金)

(2)引換場所 中区役所まちづくり推進室

※住所、氏名のほか、ナビのスタンプや写真を確認させていただきます。デジタルカメラの場合、モニターで確認しますので、プリントの必要はありません。

3 まちあるきにあたっての注意事項

(1)ナビで紹介する施設には、私有地などを含んでいます。見学にあたってはマナーを守ってください。また、施設の都合により見学できない場合もありますので、ご了承ください。

(2)交通ルールを守り、事故に気を付けましょう。

【問合せ・記念品引換】

名古屋市中区区民生活部まちづくり推進室
〒460-8447 名古屋市中区栄四丁目1番8号
電話052(265)2228 ファクス052(261)0535
開庁時間 月曜日から金曜日 午前8時45分から
午後5時15分まで(休日・祝日・年末年始を除く)

橋町界隈でのまちあるきについては、

橋町界隈スマホdeまちあるき [検索](#)

名古屋歴史スマートナビについては、

名古屋歴史スマートナビ [検索](#)





橋町界限スマホdeまちあるき チェックポイント



①那古野山古墳
(古墳)



②万松寺
(身代り不動明王)



③天寧寺
(三宝殿前)



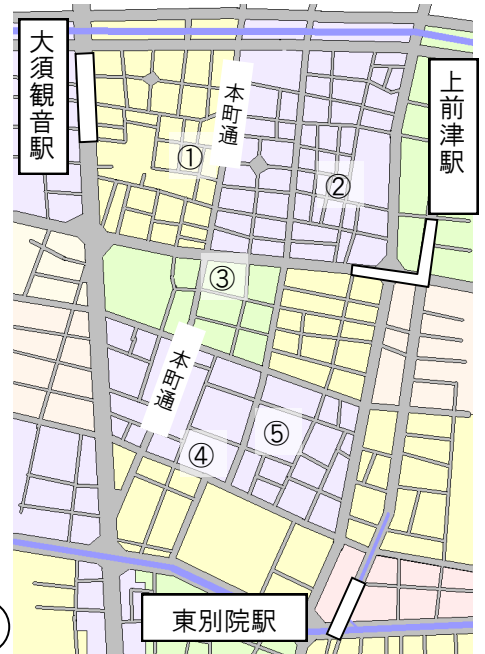
④栄国寺
(本堂の鬼瓦)



⑤長栄寺
よこいやゆうらづか
(横井也有蘿塚)

※いずれも普通に見学
できる場所にあります。

※他の見どころについて
は「見どころマップ」を
ご確認ください。



橋町は、尾張藩2代藩主徳川光友が和歌にちなんで名づけたとされる地名です。名古屋城と熱田を結ぶ名古屋のメインストリート本町通が貫き、城下最南端である橋町には大木戸が設けられました。光友が芝居の興行権を認めたことに加え、7代藩主宗春が

隣接地への遊郭の新設や芝居小屋の増設を許可したこと、南の寺町は歓楽街としてもにぎわいました。先の大戦で中区の焼失面積は約6割に上りましたが、橋町界限には戦災を免れた寺や商店などの歴史的建造物が今に受け継がれ、趣きのある景観を保っています。



▲おからねこ

おからねこの伝承

おから猫は泣いていた。じっと声を押し殺して泣いていた。大きな榎の木が一本そびえているだけの、荒れはてた祠に、月の光に照らされて、おから猫の泣く姿が、無気味に映っている。おから猫の背中には、小さな木が二年ほど前から生えてきた。

木は生えたときのままで、それ以上、大きくも小さくもならない。木の下には草が生えていた。

おから猫は、自分の背中に木や草が生えてきたのを見たとき、一瞬考えた。大池の近くまでふらふらと歩いていった。池に飛びこもうと思った。池に映った自分の姿を見たとき、あまりのおぞましさに意識をなくしたほどだ。

なぜ、背中に木や草が生えてきたのか。まったく心当たりがなかった。池に映る自分の姿をみて、死ぬ気力さえもなくて、座りこんでしまった。

自分を襲った運命をどのように考えたらよいのか、安心して池に映る自分の姿を見つめていた。

生まれたときは、毛並みのよい、誰からもほめられる美しい猫であった。中国(唐)の偉い人たちが飼っている立派な猫に似ているので、お唐猫と呼ばれるようになった。

猫の仲間からは、一目も二目もおかれるような猫で、誰からもかわいがられていた。

しかし、おから猫は自分の体に異変がおこってきたのに気づいた。

体が次第に大きくなってきた。どんどん大きくなり、しまいには、牛や馬ほどの大きさになった。猫の仲間たちは、気持ち悪がり、誰もおから猫に近づかなくなった。

かといって、牛や馬からも相手にされない。

おから猫は孤独であった。ひとり前津の誰も近づかない荒れ

はてた祠で、くらしていた。

二年ほど前のことだ。背中に木や草が生えているのに気づいたとき、「どうして自分だけがこんな過酷な運命に襲われるのか」おから猫はこのときほど自分の運命をのろわしく思ったことはなかった。

なぜ、木や草が生えてきたのか、今までは、心当たりがまったくなかったが、死を考えたときにふと気づいた。今になってみれば、一つだけ思い当たることがある。

自分はお唐猫と言われて得意になっていた。他の猫とは違っているとうぬぼれていた。

尊大な態度が、自然と自分を太らせ、牛や馬ほどの大きさにしたのだ。他の猫とは違っているという強引な自負心が、神様を怒らせ、とうとう背中に草や木が生えるようになったのだ。

おから猫は何日も何日も泣き続けた。そして涙も枯れはてたとき、おから猫は自分の運命を甘受して生きようと思った。誰から、どのように思われてもよい。自分を襲った運命を素直に受け入れて、ありのままに生きようと決意した。

そのときから、おから猫は祠の前から動かなくなった。雨が何日もふっても、一歩もそこから動かなかった。どんなに強い風が吹いても、おから猫はびくともしなかった。

そんなおから猫を見て、人々は手を合わせて拝むようになった。運命を甘受し、泰然自若とすべてのものを受け入れるおから猫を、人々は、偉大なものとして畏怖するようになった。

おから猫に願いごとを頼めば、願いが叶えられる。そんな噂が広まった。人々はこぞって、前津の地に集まり、おから猫の前で、手をあわせた。

中にはおから猫に願いごとを頼むのだからと、おからを山盛り

に置いていく人もあった。おから猫は、まったく表情を変えずに、人々の前に立っていた。畏怖されるにふさわしい温和な表情だった。

「堀川端ふしぎばなし」より
(発行:堀川文化を伝える会)